

平成28年9月（第9回）教育委員会会議議事録

1. 開催の日時及び場所

平成28年9月21日（水）17:00～17:58

宇部市港町庁舎 3階会議室

2. 出席委員の氏名

水田 和江 委員長

三原 節子 委員

赤川 宏 委員

田村賢二郎 委員

白石 千代 教育長

3. その他議場に参加した者

大下教育部長、唐沢教育次長、野口教育次長、佐貫理事、野村総務課長、森田学校教育課長、山田指導主事、佐々木学校安心支援室長、奥住学校安心支援室長、西村総務課長補佐、小林総務係長

4. 傍聴者

なし

5. 趣 旨

委員長： ただいまから、平成28年9月21日の第9回教育委員会会議を開催いたします。

本日は、5人の委員全員の出席がありますので、会議として成立していることを最初に報告します。

また、本日の傍聴の申し出はありませんでした。

委員長： 次に、議事録の承認についてですが、前回の会議でお配りしています7月26日の第7回の議事録について、ご意見等ありましたでしょうか。

（全委員異議なし）

委員長： それでは、第7回の議事録については承認とさせていただきます。

続いて、8月22日の第8回の議事録の報告についてですが、机上に配布していますので、次回までにご覧いただき、次回の会議で承認を受けたいと思いますので、よろしくお願いします。

次に、本日の会議録署名委員の指名についてですが、本日の会議録署名人は田村委員をお願いします。

委員長： 本日の議題は、その他の事項として、「全国学力・学習状況調査の結果について」、「不登校防止アクションプランについて」、「寄附の報告について」の3件となっております。

委員長： それでは、次第に沿って、はじめに、「全国学力・学習状況調査の結果について」、事務局から説明をお願いします。

事務局： 「全国学力・学習状況調査の結果について」説明します。

まず小学校ですが、算数Bは、全国平均を上回っていますが、総合正答率では、昨年度より1.5ポイントマイナスとなっています。全国平均を100と

した指数では99.5ポイントとなっています。中学校では、数学A、Bで全国平均を上回り、総合正答率では、昨年度より0.8ポイント改善し、101.2となっています。各教科では、小中学校とも国語に課題が見られます。内容としては、漢字の読み書きや、ローマ字などの基礎言語事項、自分の考えを文章に書き出すこと、文章を読み要点を整理することなどがあります。小学校の算数では、割合などの数量関係の把握や、三角形などの図形の性質の理解に課題が見られます。続きまして、児童生徒質問紙の結果についてですが、算数、数学については、肯定的な意見が多く見られましたが、国語に関しては、苦手意識が強い傾向があり、実際の正答率と関連しています。また、家庭における学習時間、読書時間が全国平均よりも短くなっています。ゲームやスマホの時間は全国平均より短くなっており、学校と家庭が連携したメディアコントロールへの取組の成果が出ているのではないかと思います。学校生活に関する回答では、前向きな回答が多く、学校生活が充実していることが読み取れます。現在、各校長に分析状況、今後の取り組み等について聞き取りを行っており、今後対策に取り組んでいきます。具体的には、課題事項について、全学年で共有し、必要な学習を明確化します。また、補充学習を日常化し、家庭や地域と連携を進めていきたいと考えています。

委員長： 只今の説明に対し、御意見、御質問はありませんか。

委員長： 平成24年度の頃と比較すると、改善傾向にあると思います。しかし、国語の基礎言語力が低いというのは、これから中学校、高校とずっと影響してくるものだと思います。これらについては、小学校何年生ぐらいで落ち込みが見られるのでしょうか。

事務局： 現在、データを持ち合わせていませんが、国語の学習内容で、言語事項が増えてくるのは、3年生あたりからだと思います。言語事項の理解が低いという点について、例えば、ローマ字について4年生で学習しますが、5年生ではまったく扱わず、6年生でテストを行うということになっており、学習したことを忘れていて、点が低くなるということがありますので、5年生のときにも、ポイントを押さえて定期的に復習しておくことが、必要と考えています。

委員長： 基礎は反復が大切ですので、それに対する忍耐力も必要です。そのためには、学校での学習だけでなく、落ち着いて学習できる環境をつくる必要があると思います。家庭での学習環境についてはどのように考えていますか。

事務局： 宿題について、やってくる子はいつもやってくるが、やっていない子は固定されており、そういう子が放置されることのないよう、ある程度学校が責任を持って指導することが必要だと思います。しかしながら、時間が限られていることからコミュニティ・スクール等、地域の力を借りて補充学習を充実させる必要があると考えています。

教育長： 中学校の校長と話をする機会があったが、基礎ができていないまま中学校に進級してくる生徒が見受けられるとのことで、小学校でしっかりとした学力をつけさせなければならないと思います。

委員： 小学校で基礎学力をしっかりつけておかないと、中学校で苦勞すると思います。今、乗り入れ授業を行っていますが、小学校の教員に中学校に来てもらって、小学校で基礎を身につけていないと中学校でこれだけ困るということを理解して欲しいと思います。小学校の教員に時間がないのは分かりますが、管理職に協力してもらって何とか実現して欲しいと思います。

また、小学校は部活動もないので、放課後を活用することも、検討していただければと思います。

事務局： 小学校では集団下校等もあり、放課後は難しいと思いますが、学童保育とも連携を図りながら、方策について検討していきたいと思います。

委員： 家庭との連携で、メディアコントロールができているということでしたが、全国平均より低いとはいえ、中学校で平日の携帯メール1時間以上が45.8%というのは、メディアコントロールができているとはいいがたい数字だと思います。平日のゲーム2時間以上も中学校で32.5%も多すぎると思います。いくら全国平均より低いといっても、安心するような数字ではないので、メディアコントロールに向けて働きかけをお願いします。

事務局： コミュニティ・スクールの取組を活用し、各学校のPTA等と連携しながらこの実態を伝えて、メディアコントロールを推進したいと考えています。

委員： メディアコントロールについて、昨年と比較して評価することは、特に変化の早いメディア環境のなかでは難しいと思います。常に新しい問題に対応していく必要があると思います。それを踏まえて、市PTA連合会と作成した「スマホの約束」も、見直しについて検討していかなくてもならないと思います。

委員長： 子どもたちの将来に生かせる力をつけていくために、これから小中一貫教育への取組を進めていく中で検討をお願いします。過去の問題を反復して、点数が上がっても本当の意味での学力がついたとはいえない面があると思いますので、子どもたちの学ぶ環境を整えていただきたいと思います。

委員長： それでは、「全国学力・学習状況調査の結果について」よろしいでしょうか。（全委員異議なし）

委員長： 次に、「不登校防止アクションプランについて」、お願いします。

事務局： 「不登校防止アクションプランについて」説明します。不登校の未然防止、早期発見、早期対応を推進するための指針として、平成28年度に「不登校防止アクションプラン」を策定することとしています。本日はこのプランを策定するための素案を作成しました。これは、不登校防止についての本市の姿勢を示すことや、現場の教職員がどのような取り組みをするべきかの目安となることを目的としています。

この素案について、お持ち帰りいただいて、ご意見等を学校安心支援室までいただけたらと思います。その後意見を踏まえて、よりよいものを目指したいと考えています。

委員長： このプランの完成はいつを予定していますか。

事務局： 10月を目途におおよその形を決めたいと考えています。

- 委員長： 教育の場の多様性について、文科省も検討していたと思いますが、宇部市として、様々な教育の場をどのように保証するのかということは、子のプランに含まれますか。
- 事務局： 文科省からは、まだ何も通知がありませんので、現在反映していませんが、今後、なんらかの進展があれば、それも踏まえて検討したいと考えています。
- 委員長： 宇部市としての独自の取り組みは考えないで、これまでの学校安心支援室としての対応のなかで、アクションプランを作成するということですか。
- 事務局： 新たな取り組みについても検討しているところです。
- 委員長： 不登校の子どもたちの背景についての把握がなされていない現状に関して、連携する機関が色々あるはずですが、せつかくのアクションプランであるので、新たな取り組みや、これからの方向性などもぜひ取り入れていただきたいと思います。
- 事務局： 今後検討していく中で、お示しできればと考えています。
- 委員： 「葛藤の见えない不登校」とはどのようなもののでしょうか。
- 事務局： 学校に行きたいけど行けないということではなく、登校できない確たる理由がなく、登校する意味を感じていないようなケースを葛藤の见えない不登校と分類しています。
- 委員： そういった子どもは多いのでしょうか。
- 事務局： 多いというほどではないと思います。
- 委員： 私は成長してからの引きこもりの方が気になります。大学は卒業したけれども、足が外に向かなくなるようなケースをよく聞きます。このような人たちが高齢化してきています。この原因は一体どこにあるのでしょうか。社会的な要因もあると思いますが、根底には、困難に立ち向かえる強い人間を育てていく必要があると思います。
- 委員： 難しい問題だとは思いますが、大学を卒業してからの挫折の例もよく聞きます。成長の過程のなかで、困難を克服する力がついていないように思いますので、学校教育でどうすればそのような力が身に付くのか大変難しい問題だと思います。小中学校で例えばいじめ問題などで、子どもたちで解決する力を身につけさせることが必要ではないかと思います。
- 委員： 対人的な能力の問題が重要だと思います。
- 委員： 最近、電車に乗っている学生を見ても、皆スマートフォンを見ていて会話がありません。メディアコントロールを身につけることが、本当に大切だと思います。
- 委員長： 子どもたちの将来を見据えて、不登校の問題について考えていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。
- 次に「寄附の報告」についてお願いします。
- 事務局： 平成28年8月分寄附について、8月9日、匿名の方から小中学校交通遺児教育資金として、3,000円、8月29日、立正佼成会宇部教会から小中学校交通遺児教育資金として、200,000円の御寄附がありましたので報告

します。

委員長：他に何かありますか。

委員長：以上を持ちまして、本日の教育委員会会議を閉会とします。